(12) 特許協力条約に基づいて公開された国際出願

(19) 世界知的所有権機関
国際事務局

(43) 国際公開日
2014 年 12 月 31 日(31.12.2014)

WIPO | PCT

(10) 国際公開番号
WO 2014/208781 A2

(51) 国際特許分類:
A61F 13/49 (2006.01)

(21) 国際出願番号: PCT/JP2014/075867

(22) 国際出願日: 2014 年 9 月 29 日(29.09.2014)

(25) 国際出願の言語: 日本語

(26) 国際公開の言語: 日本語

(30) 優先権データ:
特願 2013-209233 2013 年 10 月 4 日(04.10.2013) JP

(71) 出願人: ユニ・チャーム株式会社(UNICHARM CORPORATION) [JP/JP]; 〒7990111 愛媛県四国中央市金生町下分１８２番地 Ehime (JP).

(72) 発明者: 齋藤　京太(SAITO, Kyota); 〒7691602 香川県観音寺市豊浜町和田浜１５３１－７　ユニ・チャーム株式会社テクニカルセンター内 Kagawa (JP). フィチェットキットジャワット　サリニー(PICHADKITJAWAT, Sarinee); チャチャンサオ，アンプアー　バンパコン，タンボン　バンブアー，１０５　ムー　９，ウェルグロー　インダストリアル　エステート　フェーズ　３ Chachoengsao (TH). ブンロッド　ナッタカーン(BUNROD, Natthakarn); チャチャンサオ，アンプアー　バンパコン，タンボン　バンブアー，１０５　ムー　９，ウェルグロー　インダストリアル　エステート　フェーズ　３ Chachoengsao (TH). チャンチャルーン　ジラパ(CHANGCHAROEN, Jirapa); チャチャンサオ，アンプアー　バンパコン，タンボン　バンブアー，１０５　ムー　９，ウェルグロー　インダストリアル　エステート　フェーズ　３ Chachoengsao (TH).

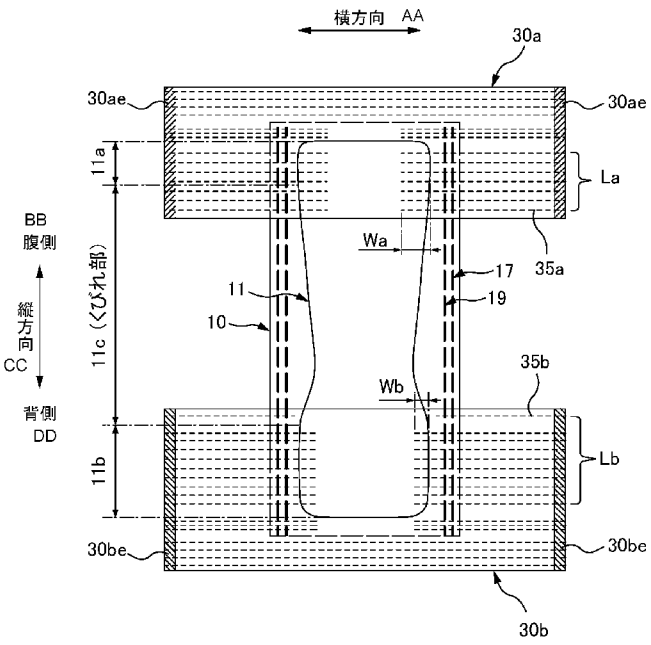
(74) 代理人: 一色国際特許業務法人(ISSHIKI & CO.); 〒1050004 東京都港区新橋２丁目１２番７号　労金新橋ビル Tokyo (JP).

(81) 指定国 (表示のない限り、全ての種類の国内保護が可能): AE, AG, AL, AM, AO, AT, AU, AZ, BA, BB, BG, BH, BN, BR, BW, BY, BZ, CA, CH, CL, CN, CO, CR, CU, CZ, DE, DK, DM, DO, DZ, EC, EE, EG, ES, FI, GB, GD, GE, GH, GM, GT, HN, HR, HU, ID, IL, IN, IR, IS, KE, KG, KN, KP, KR, KZ, LA, LC, LK, LR, LS, LU, LY, MA, MD, ME, MG, MK, MN, MW, MX, MY,

[続葉有]

(54) **Title**: ABSORBENT ARTICLE

(54) 発明の名称 : 吸収性物品



11c Narrow section
AA Widthwise direction
BB Abdomen side
CC Lengthwise direction
DD Back side

(57) **Abstract**: This absorbent article, which has a lengthwise direction and a widthwise direction that intersects the lengthwise direction, includes: an absorbent body that is provided along the lengthwise direction and absorbs waste; an abdomen-side band member that is provided along the widthwise direction, and is fixed at the widthwise center thereof to one end of the absorbent body in the lengthwise direction while covering said end from the non-skin-side of the absorbent body; and a back-side band member that is provided along the widthwise direction as a separate member from the abdomen-side band member, and is fixed at the widthwise center thereof to the other end of the absorbent body in the lengthwise direction while covering said other end from the non-skin-side of the absorbent body. Elastic members that are expandable along the widthwise direction are respectively provided to the abdomen-side band member and the back-side band member. The abdomen-side band member includes abdomen-side-band-member side edge sections on both widthwise side edges thereof, the back-side band member includes back-side-band-member side edge sections on both widthwise side edges thereof, and the absorbent article is formed in a cylindrical manner by joining the abdomen-side-band-member side edge sections and the back-side-band-member side edge sections. The absorbent body includes an absorbent core obtained by laminating liquid-absorbent materials, and a liquid-impermeable leakage prevention sheet that covers the absorbent core from the non-skin side of the absorbent core. The absorbent core includes a narrow section between an abdomen-side end section and a back-side end section, with the width of the narrow section in the widthwise direction being narrower than that of the abdomen-side end section and the back-side end section. The positions of the back-side-band-member side edge sections and the narrow section at least partially overlap in the lengthwise direction.

(57) 要約:

[続葉有]

WO 2014/208781 A2

MZ, NA, NG, NI, NO, NZ, OM, PA, PE, PG, PH, PL, PT, QA, RO, RS, RU, RW, SA, SC, SD, SE, SG, SK, SL, SM, ST, SV, SY, TH, TJ, TM, TN, TR, TT, TZ, UA, UG, US, UZ, VC, VN, ZA, ZM, ZW.

(84) 指定国 (表示のない限り、全ての種類の広域保護が可能): ARIPO (BW, GH, GM, KE, LR, LS, MW, MZ, NA, RW, SD, SL, ST, SZ, TZ, UG, ZM, ZW), ユーラシア (AM, AZ, BY, KG, KZ, RU, TJ, TM), ヨーロッパ (AL, AT, BE, BG, CH, CY, CZ, DE, DK, EE, ES, FI, FR, GB, GR, HR, HU, IE, IS, IT, LT, LU, LV, MC, MK, MT, NL, NO, PL, PT, RO, RS, SE, SI, SK, SM, TR), OAPI (BF, BJ, CF, CG, CI, CM, GA, GN, GQ, GW, KM, ML, MR, NE, SN, TD, TG).

添付公開書類:

— 出願人の請求に基づく第２１条(2)(a)による期間経過前の公開。

— 国際調査報告なし；国際調査報告を受け取り次第公開される。（規則 48.2(g)）

縦方向と、前記縦方向と交差する横方向と、を有した吸収性物品であって、前記縦方向に沿って設けられ、排泄物を吸収する吸収性本体と、前記横方向に沿って設けられ、前記吸収性本体の前記縦方向の一端部を前記吸収性本体の非肌側から覆いながら前記一端部に前記横方向の中央部が固定された腹側帯部材と、前記腹側帯部材とは別部材として前記横方向に沿って設けられ、前記吸収性本体の前記縦方向の他端部を前記吸収性本体の非肌側から覆いながら前記他端部に前記横方向の中央部が固定された背側帯部材と、を有し、前記腹側帯部材及び前記背側帯部材には、前記横方向に沿って伸縮する弾性部材がそれぞれ配置され、前記腹側帯部材は前記横方向両側縁に腹側帯部材側縁部を有し、前記背側帯部材は前記横方向両側縁に背側帯部材側縁部を有し、前記腹側帯部材側縁部及び前記背側帯部材側縁部が接合されることで前記吸収性物品が筒状に成形され、前記吸収性本体は、液体吸収性素材を積層してなる吸収性コアと、前記吸収性コアを該吸収性コアの非肌側から覆う液不透過性の防漏シートを有し、前記吸収性コアは、腹側端部と背側端部との間に、前記腹側端部及び前記背側端部よりも前記横方向の幅が狭いくびれ部を有し、前記背側帯部材側縁部の少なくとも一部は、前記縦方向において前記くびれ部と位置が重複する。

明　細　書

発明の名称 ： 吸収性物品

技術分野

[0001] 本発明は、吸収性物品に関する。

背景技術

[0002] 排泄物を吸収する吸収性物品として、３ピースタイプの使い捨ておむつが知られている。３ピースタイプの使い捨ておむつでは、一般に、着用者の股間にあてがわれて排泄物を吸収する吸収性本体と、着用者の腹側部を覆う腹側帯部材と、着用者の背側部を覆う背側帯部材とを有するように構成されている。このような３ピースタイプの使い捨ておむつにおいて、吸収性本体の長手方向中間部をくびれさせ、該吸収性本体の形状を略砂時計形状としたおむつに関する発明が開示されている（例えば、特許文献１）。

先行技術文献

特許文献

[0003] 特許文献1：特開２００８－２５３２８５号公報

発明の概要

発明が解決しようとする課題

[0004] 特許文献１のような略砂時計形状の吸収性本体を備える使い捨ておむつでは、着用者の脚の前後動が妨げられ難くなる。また、くびれ部の配置を調整することによって、脚の前後動が行われる際に吸収性本体に加わる力を小さくして、フィット性が悪化することを抑制することができる。

[0005] しかし、吸収性本体にくびれ部があることによって、当該くびれ部と着用者の脚との間に隙間が生じやすくなる場合がある。このような隙間が生じると、当該隙間から排泄物が漏れ出るおそれがある。特に、着用者が乳幼児である場合は、おむつを寝姿勢で着用することが多く、また、寝姿勢において脚が前寄りに曲がっていることが多いため、臀部側において隙間が生じやすくなり、排泄物が漏れやすいという問題があった。

[0006] 本発明は、上記のような問題に鑑みてなされたものであって、その目的とするところは、長手方向の中間部にくびれ部を有する吸収性本体を備える３ピースタイプのおむつにおいて、着用者の脚と吸収性本体との間に隙間が生じることを抑制する、ことにある。

課題を解決するための手段

[0007] 上記目的を達成するための主たる発明は、

縦方向と、前記縦方向と交差する横方向と、を有した吸収性物品であって、前記縦方向に沿って設けられ、排泄物を吸収する吸収性本体と、前記横方向に沿って設けられ、前記吸収性本体の前記縦方向の一端部を前記吸収性本体の非肌側から覆いながら前記一端部に前記横方向の中央部が固定された腹側帯部材と、前記腹側帯部材とは別部材として前記横方向に沿って設けられ、前記吸収性本体の前記縦方向の他端部を前記吸収性本体の非肌側から覆いながら前記他端部に前記横方向の中央部が固定された背側帯部材と、を有し、前記腹側帯部材及び前記背側帯部材には、前記横方向に沿って伸縮する弾性部材がそれぞれ配置され、前記腹側帯部材は前記横方向両側縁に腹側帯部材側縁部を有し、前記背側帯部材は前記横方向両側縁に背側帯部材側縁部を有し、前記腹側帯部材側縁部及び前記背側帯部材側縁部が接合されることで前記吸収性物品が筒状に成形され、前記吸収性本体は、液体吸収性素材を積層してなる吸収性コアと、前記吸収性コアを該吸収性コアの非肌側から覆う液不透過性の防漏シートを有し、前記吸収性コアは、腹側端部と背側端部との間に、前記腹側端部及び前記背側端部よりも前記横方向の幅が狭いくびれ部を有し、前記背側帯部材側縁部の少なくとも一部は、前記縦方向において前記くびれ部と位置が重複する、ことを特徴とする吸収性物品である。

本発明の他の特徴については、本明細書及び添付図面の記載により明らかにする。

発明の効果

[0008] 本発明によれば、長手方向の中間部にくびれ部を有する吸収性本体を備える３ピースタイプのおむつにおいて、着用者の脚と吸収性本体との間に隙間

が生じることを抑制することができる。

図面の簡単な説明

[0009] [図1]本実施形態に係る３ピースタイプの使い捨ておむつ（おむつ１）の概略斜視図である。

[図2]展開状態の同おむつ１を肌側から見た概略平面図である。

[図3]同おむつ１を非肌側から見た概略平面図である。

[図4]図４Ａは、図２中のＡ－Ａ断面図及びＣ－Ｃ断面図であり、図４Ｂは、図２中のＢ－Ｂ断面図である。

[図5]本実施形態における吸収性コア１１のくびれ部と背側帯部材３０ｂとの位置関係について説明する図である。

[図6]比較例における吸収性コア１１のくびれ部と背側帯部材３０ｂとの位置関係について説明する図である。

[図7]中央部分ＡＤｃｃに弾性部材３５が存在している例について説明する概略平面図である。

発明を実施するための形態

[0010] 本明細書及び添付図面の記載により、少なくとも以下の事項が明らかとなる。

縦方向と、前記縦方向と交差する横方向と、を有した吸収性物品であって、前記縦方向に沿って設けられ、排泄物を吸収する吸収性本体と、前記横方向に沿って設けられ、前記吸収性本体の前記縦方向の一端部を前記吸収性本体の非肌側から覆いながら前記一端部に前記横方向の中央部が固定された腹側帯部材と、前記腹側帯部材とは別部材として前記横方向に沿って設けられ、前記吸収性本体の前記縦方向の他端部を前記吸収性本体の非肌側から覆いながら前記他端部に前記横方向の中央部が固定された背側帯部材と、を有し、前記腹側帯部材及び前記背側帯部材には、前記横方向に沿って伸縮する弾性部材がそれぞれ配置され、前記腹側帯部材は前記横方向両側縁に腹側帯部材側縁部を有し、前記背側帯部材は前記横方向両側縁に背側帯部材側縁部を有し、前記腹側帯部材側縁部及び前記背側帯部材側縁部が接合されることで

前記吸収性物品が筒状に成形され、前記吸収性本体は、液体吸収性素材を積層してなる吸収性コアと、前記吸収性コアを該吸収性コアの非肌側から覆う液不透過性の防漏シートを有し、前記吸収性コアは、腹側端部と背側端部との間に、前記腹側端部及び前記背側端部よりも前記横方向の幅が狭いくびれ部を有し、前記背側帯部材側縁部の少なくとも一部は、前記縦方向において前記くびれ部と位置が重複する、ことを特徴とする吸収性物品。

[0011] このような吸収性物品によれば、着用者の脚と吸収性本体との間に隙間が生じることを抑制する実現することができる。

[0012] かかる吸収性物品であって、前記縦方向において前記くびれ部と重複する位置に配置されている前記弾性部材は、前記腹側帯部材の前記横方向の一端部から他端部までの間、若しくは前記背側帯部材の前記横方向の一端部から他端部までの間、もしくはその両方、のいずれかに非連続となる部分を有する、ことが望ましい。

[0013] このような吸収性物品によれば、吸収性コアの横方向に作用する帯部弾性体による収縮力が抑制されるため、当該吸収性コアの皺の発生を防止することができる。

[0014] かかる吸収性物品であって、前記縦方向において前記くびれ部と重複する位置に配置されている前記弾性部材は、少なくとも、前記腹側帯部材の前記横方向の一端部から他端部までの間に非連続となる部分を有する、ことが望ましい。

[0015] このような吸収性物品によれば、吸収性コアの背側の領域に横方向の伸縮力を作用させないようにすることで、少なくとも当該領域では吸収性コアに皺を発生させず、乳幼児が寝姿勢でおむつを着用する際にも背中が痛くならないようにすることができる。

[0016] かかる吸収性物品であって、前記背側帯部材側縁部は前記吸収性コアと前記縦方向において位置が重複する領域を有し、前記重複する領域の前記縦方向の長さは、前記背側帯部材側縁部の前記縦方向の長さの半分以上である、ことが望ましい。

[0017] このような吸収性物品によれば、吸収性コアの背側（臀部側）領域に腹側帯弾性部材及び背側帯弾性部材による伸縮力が十分に作用しやすくなり、おむつ着用時において吸収性コアの位置をずれにくくすることができる。

[0018] かかる吸収性物品であって、前記吸収性コアより前記横方向外側に前記縦方向に沿って配置された脚周り弾性部材のうち伸長状態にある部分と、前記背側帯部材に配置された前記弾性部材とが交差する領域の前記縦方向の長さは、前記背側帯部材側縁部の前記縦方向の長さの半分以上である、ことが望ましい。

[0019] このような吸収性物品によれば、帯部に設けられた弾性部材による横方向の引っ張り力が脚周り弾性部材の有効長範囲に対して大きく作用するため、おむつのフィット性をより高くすることができる。

[0020] かかる吸収性物品であって、前記背側帯部材の非肌側表面には、前記吸収性物品を廃棄する際に前記吸収性物品を丸めた状態に保持するためのテープ部材が設けられ、前記テープ部材と前記吸収性コアとは、前記縦方向において少なくとも一部が重複する位置に配置されている、ことが望ましい。

[0021] このような吸収性物品によれば、着用者の肌（臀部）と後処理テープとの間で厚さ方向に厚みを有する吸収性コアがクッションとして機能することで、後処理テープの感触を着用者の肌（臀部）に伝えにくく、着用者が違和感を生じるのが抑制される。

[0022] かかる吸収性物品であって、前記背側帯部材の前記縦方向の長さは、前記腹側帯部材の前記縦方向の長さよりも長い、ことが望ましい。

[0023] このような吸収性物品によれば、背側帯部材の方が腹側帯部材よりも面積が広くなり、着用者の臀部を広く覆うことができる。

[0024] かかる吸収性物品であって、前記背側帯部材の前記縦方向の上側端部と、前記背側帯部材の前記縦方向の下側端部とが平行である、ことが望ましい。

[0025] このような吸収性物品によれば、脚周り開口が斜めになっている場合と比較して、おむつ着用時に背側帯部材がめくれにくくなり、着用者の臀部が露出するのを抑制しやすくなる。

[0026] かかる吸収性物品であって、前記吸収性本体は、前記吸収性コアを肌側から覆うシート状の表面シート部材を有し、前記表面シート部材によって、該表面シート部材の横方向の各端部にそれぞれ起立する防漏壁部が成形され、前記吸収性コアの前記腹側端部及び前記背側端部の位置において成形される前記防漏壁部の起立高さよりも、前記吸収性コアの前記くびれ部の位置において成形される前記防漏壁部の起立高さの方が高い、ことが望ましい。

[0027] このような吸収性物品によれば、隙間のできやすい吸収性コアのくびれ部において防漏壁部（立体ギャザーＬＳＧ）を高く成形することで、排泄物を漏れにくくすることができる。

[0028] ＝＝＝実施形態＝＝＝

＜使い捨ておむつの構成＞

図１は、本実施形態の吸収性物品の一例としての３ピースタイプの使い捨ておむつ（おむつ１）の概略斜視図である。図２は、展開状態のおむつ１を肌側から見た概略平面図である。図３は、同おむつ１を非肌側から見た概略平面図である。また、図４Ａは、図２中のＡ－Ａ断面図及びＣ－Ｃ断面図であり、図４Ｂは、図２中のＢ－Ｂ断面図である。

[0029] 図２、図４Ａ、及び図４Ｂに示すように、このおむつ１は、互いに直交する三方向として縦方向と横方向と厚さ方向とを有している。また、同おむつ１は、所謂３ピースタイプであることから、３つの部品１０，３０ａ，３０ｂを有している。すなわち、このおむつ１は、第１部品として、着用者の股間部にあてがわれ尿等の排泄物を吸収する吸収性本体１０を有し、第２部品として、同着用者の腹側部を覆う腹側帯部材３０ａを有し、第３部品として、同着用者の背側部を覆う背側帯部材３０ｂを有している。そして、図２の展開状態では、腹側帯部材３０ａと背側帯部材３０ｂとが互いに縦方向に間隔をあけて平行に並んだ状態で、これらの間に吸収性本体１０が掛け渡されつつ、同吸収性本体１０の長手方向の各端部１０ｅａ，１０ｅｂがそれぞれ最寄りの帯部材３０ａ，３０ｂに接合固定されており、その外観形状は平面視略Ｈ形状をなしている。そして、この状態から、吸収性本体１０がその長

手方向の略中央部Ｃ１０を折り位置として二つ折りされる。この二つ折りの状態において互いに対向する腹側帯部材３０ａと背側帯部材３０ｂとが、着用者の脇腹に当接すべき部分である腹側帯部材側縁部３０ａｅと、背側帯部材側縁部３０ｂｅと（つまり、横方向の各端部）にて接合・連結されると、これら帯部材３０ａ，３０ｂ同士が環状に成形される。これにより、図１に示すような胴周り開口１ＨＢ及び一対の脚周り開口１ＨＬが形成された着用状態のおむつ１となる。

[0030] なお、上述の腹側帯部材側縁部３０ａｅと背側帯部材側縁部３０ｂｅとを連結する連結構造としては、種々の連結構造を採用できる。そして、例えば、溶着等の取り外し不能な連結構造を用いれば、パンツ型のおむつにすることができ、他方、ファスニングテープ部材（不図示）等の着脱自在な連結構造を用いれば、オープン型のおむつにすることができる。ちなみに、この例では、前者の連結構造を用いており、これにより、本実施形態のおむつ１はパンツ型とされている。

[0031] 以下の説明では、おむつ１の縦方向、横方向、厚さ方向のことを、それぞれ単に「縦方向」、「横方向」、「厚さ方向」と言う。なお、厚さ方向に関しては、着用者に接触する側のことを「肌側」とも言い、その逆側のことを「非肌側」とも言う。

[0032] 以下、図１乃至図４Ｂを参照しつつ、おむつ１の３つの構成部品１０，３０ａ，３０ｂについて説明する。

[0033] 図２及び図４Ｂに示すように、吸収性本体１０は、吸収性コア１１と、吸収性コア１１を同コア１１の肌側から覆う表面シート部材１３と、吸収性コア１１を同コア１１の非肌側から覆って吸収性本体１０の外装をなす裏面シート部材１５と、を備えている。

[0034] 吸収性コア１１は、液体吸収性素材を積層してなる部材であり、尿等の排泄物を吸収することができる。液体吸収性素材としては、例えば、パルプ繊維等の液体吸収性繊維を使用することができる。なお、吸収性コア１１は、液体吸収性粒状物として例えば高吸収性ポリマーを含有していても良いし、

または、液体吸収性繊維及び液体吸収性粒状物以外の液体吸収性素材を含んでいても良い。また、吸収性コア１１は、ティッシュペーパー等の液透過性シート（不図示）で被覆されていても良い。

[0035] 本実施形態の吸収性コア１１は、図２における縦方向上側の端部領域である腹側端部１１ａと、図２における縦方向下側の端部領域である背側端部１１ｂとを有する。そして、腹側端部１１ａと背側端部１１ｂとの間に、腹側端部１１ａ及び背側端部１１ｂよりも横方向の幅が狭いくびれ部１１ｃを有する。これにより、吸収性コア１１は図２に示されるような平面視略砂時計形状となるように構成されている。吸収性コア１１にくびれ部１１ｃが設けられることにより、おむつ１の着用者の脚と吸収性コア１１との干渉を小さくし、おむつ１の着用時において着用者が脚を動かしやすくすることができる。

[0036] 表面シート部材１３は、吸収性コア１１を肌側から覆うシート状の部材であり、例えば吸収性コア１１よりも大きい平面サイズの液透過性の不織布である（図４Ｂ参照）。また、裏面シート部材１５は、吸収性コア１１を非肌側から覆うシート状の部材であり、吸収性コア１１より大きい平面サイズのシートであり、その一例としては、ポリエチレン又はポリプロピレン等の液不透過性の防漏シート１５ａと、不織布等の外装シート１５ｂとが貼り合わされた二層構造のシートが挙げられる。そして、これら裏面シート部材１５と表面シート部材１３との間に吸収性コア１１を挟んだ状態において、吸収性コア１１の四辺から外側にはみ出す部分にて、裏面シート部材１５の防漏シート１５ａと表面シート部材１３とが額縁状に貼り合わされ、これにより、吸収性本体１０が概ね形成されている。

[0037] また、おむつ１では、図１、図２、及び図４Ｂに示すように、外装シート１５ｂによって所謂立体ギャザーＬＳＧ及び脚回りギャザーＬＧが形成される。立体ギャザーＬＳＧは、表面シート部材１３の横方向の各端部にそれぞれ起立して設けられた防漏壁部であり、他方、脚回りギャザーＬＧは、おむつ１の各脚周り開口１ＨＬ，１ＨＬに形成される脚周り伸縮部のことである

。かかる外装シート１５ｂについて詳説すると、先ず、図４Ｂに示すように、外装シート１５ｂの横方向の寸法は、防漏シート１５ａよりも十分大きくされており、すなわち、外装シート１５ｂは、防漏シート１５ａの横方向の両側から横方向に大きくはみ出している。そして、このはみ出した部分１５ｂｆが、吸収性本体１０の横方向の端部１０ｅｓをなす位置を折り返し位置として横方向の中央側に折り返されて、同折り返し位置の近傍に縦方向に沿って糸ゴム等の脚周り弾性部材１７及び脚周り補助弾性部材１９が縦方向に伸長された状態で固定され、これにより、上記の脚回りギャザーＬＧが形成されている。なお、脚周り補助弾性部材１９は必ず必要というわけではなく、脚周り弾性部材１７のみによって脚回りギャザーＬＧが形成されるのであってもよい。また、折り返された部分１５ｂｇは、更に横方向の中央側へと延びていき、表面シート部材１３の横方向の端部を覆う位置で、同端部に接合されている。そして、この端部に接合された部分が立体ギャザーＬＳＧの基端部ＬＳＧｂとして機能して、すなわち、当該基端部ＬＳＧｂよりも更に横方向の先端側の部分が自由端部分ＬＳＧｆとして表面シート部材１３から起立可能となっている。また、自由端部分ＬＳＧｆの先端部には、縦方向に沿って糸ゴム等のＬＳＧ弾性部材１８が縦方向に伸長された状態で固定されている。よって、ＬＳＧ弾性部材１８の縦方向の収縮によって、表面シート部材１３側が内周側となるように吸収性本体１０は縦方向に湾曲するが、この湾曲時には、同ＬＳＧ弾性部材１８から付与される収縮力によって自由端部分ＬＳＧｆは、縦方向に収縮して表面シート部材１３から起立し、これにより、同自由端部分ＬＳＧｆは立体ギャザーＬＳＧとして機能する。

[0038] なお、本実施形態では吸収性コア１１がくびれ部を有する略砂時計形状となっているため、当該くびれ部の横方向の幅の広さに応じて立体ギャザーＬＳＧの起立高さが異なる。具体的には、吸収性コア１１の横方向の幅が広いほど、上述した横方向へはみ出した部分１５ｂｆが短くなり、立体ギャザーＬＳＧの起立高さが低くなる。逆に、吸収性コア１１の横方向の幅が狭いほど、横方向へはみ出した部分１５ｂｆが高くなり、立体ギャザーＬＳＧの起

立高さが高くなる。したがって、吸収性コア１１の横方向の幅が広い腹側端部１１ａもしくは背側端部１１ｂよりも、吸収性コア１１の横方向の幅が狭いくびれ部１１ｃの方が立体ギャザーＬＳＧの起立高さが高くなる。これにより、隙間のできやすいくびれ部において立体ギャザーＬＳＧが高く成形され、排泄物を漏れにくくすることができる。

[0039] なお、不図示であるが、場合によっては、表面シート部材１３と吸収性コア１１との間、又は、裏面シート部材１５と吸収性コア１１との間に、セカンドシートとしてティッシュペーパー等の液透過性シートを介装しても良い。

[0040] 図２に示すように、腹側帯部材３０ａ及び背側帯部材３０ｂは、何れも、例えば不織布等の柔軟なシートを素材とした平面視略矩形形状のシート部材である。ここでは、図４Ａ及び図４Ｂに示すように、不織布３１，３２を二枚重ねに接合することで腹側帯部材３０ａ及び背側帯部材３０ｂが形成されている。そして、腹側帯部材３０ａ及び背側帯部材３０ｂは、それぞれ横方向の中央部３０ａｃ，３０ｂｃで、吸収性本体１０における縦方向の各端部１０ｅａ，１０ｅｂを吸収性本体１０の非肌側から覆いながら、当該各端部１０ｅａ，１０ｅｂに帯部材３０ａ，３０ｂの中央部３０ａｃ，３０ｂｃが重ね合わせられて接合されている。なお、二枚の不織布３１，３２は互いに同じサイズでなくても良い。

[0041] また、本実施形態のおむつ１では、腹側帯部材３０ａの縦方向長さ（短手方向長さ）よりも、背側帯部材３０ｂの縦方向長さ（短手方向長さ）の方が長い。一方、腹側帯部材３０ａの横方向長さは背側帯部材３０ｂの横方向長さとほぼ同じである。つまり、腹側帯部材３０ａよりも背側帯部材３０ｂの方が面積が広くなり、着用者の臀部を広く覆うことができるようにしている。さらに、背側帯部材３０ｂの形状は略長方形であり、縦方向の上側端部と下側端部とが平行である。したがって、胴周り開口１ＨＢの開口縁と背側帯部材３０ｂにおける脚周り開口１ＨＬの開口縁も平行になる。これにより、脚周り開口が斜めになっている場合と比較して、おむつ１の着用時に背側帯

部材がめくれにくくなり、臀部が露出するのを抑制しやすくなる。

[0042] 腹側帯部材３０ａの中央部３０ａｃ及び背側帯部材３０ｂの中央部３０ｂｃへの吸収性本体１０の重ね合わせは、腹側帯部材３０ａの縦方向の端部３０ａｅ２及び背側帯部材３０ｂの縦方向の端部３０ｂｅ２には吸収性本体１０を重ねずに、同端部３０ａｅ２，３０ｂｅ２よりも縦方向の中央側の部分３０ａｃ２，３０ｂｃ２に吸収性本体１０を重ねるようにして行われる（図２参照）。そして、これにより、腹側帯部材３０ａ及び背側帯部材３０ｂにおける縦方向の端部３０ａｅ２，３０ｂｅ２は、横方向の全長に亘って帯状に吸収性本体１０が全く重ならない部分３０ａｅ２，３０ｂｅ２とされている。なお、この重ならない部分３０ａｅ２，３０ｂｅ２は、おむつ１の胴回り開口１ＨＢ（図１）を構成する部分となり、よって、当該部分３０ａｅ２，３０ｂｅ２には、後述する弾性部材３５が、同部分３０ａｅ２，３０ｂｅ２における横方向の略全長に亘って連続して設けられている。

[0043] 図２、図４Ａ、及び図４Ｂに示すように、帯部材３０ａ，３０ｂに係る２枚の不織布３１，３２同士の間には、横方向に沿って糸ゴム等の複数本の弾性部材３５，３５…が介挿されつつ、横方向に伸長された状態で同不織布３１，３２に接合固定されており、これにより、腹側帯部材３０ａ及び背側帯部材３０ｂにはそれぞれ横方向の伸縮性が付与されている。また、かかる複数本の弾性部材３５，３５…は、縦方向に間隔をあけながら縦方向に並んで設けられている。本明細書中では、腹側帯部材３０ａに設けられる弾性部材３５を腹側帯弾性部材３５ａとし、背側帯部材３０ｂに設けられる弾性部材３５を背側帯弾性部材３５ｂとする。弾性部材３５は、太さや本数、縦方向の配置位置等の詳細仕様を除けば、その基本構成は、概ね互いに同じである。そのため、以下では、腹側帯部材３０ａに設けられる腹側帯弾性部材３５ａについて説明し、背側帯部材３０ｂに設けられる背側帯弾性部材３５ｂの説明については省略する場合がある。また、このことは、背側帯部材３０ｂに関する全ての構成についても同様である。

[0044] また、以下では、説明の都合上、図３に示すように、腹側帯部材３０ａ及

び背側帯部材３０ｂをそれぞれ縦方向に二つの領域ＡＵ，ＡＤに区分し、そして、縦方向に並ぶ二つの各領域ＡＵ，ＡＤのことを、縦方向の端側から中央側に向かうに従って、「上部領域ＡＵ」、及び「下部領域ＡＤ」と言う。なお、同図３を参照してわかるように、領域ＡＵ，ＡＤともに、横方向に沿った帯状の領域とされている。

[0045] 上部領域ＡＵは、おむつ１の胴回り開口１ＨＢを構成する部分であり、また、同領域ＡＵは、横方向の全長に亘って吸収性本体１０（吸収性コア１１）が全く重ね合わせられていない領域である。そして、かかる上部領域ＡＵには、腹側帯弾性部材３５ａ（背側帯弾性部材３５ｂ）が、同領域ＡＵにおける横方向の一端部から他端部までの略全長に亘って連続して配置されながら、横方向に伸長された状態で固定されている。よって、当該腹側帯弾性部材３５ａに基づいて上部領域ＡＵには、横方向の略全長に亘って横方向の伸縮性が付与されており、この伸縮性は、おむつ１の胴回り開口１ＨＢの伸縮性となる。

[0046] 下部領域ＡＤは、横方向の中央部ＡＤｃに、吸収性本体１０のうちの吸収性コア１１が存在する部分１０ｐが重ね合わせられて固定される領域である。なお、かかる下部領域ＡＤのうちで上記中央部ＡＤｃの両側に位置する各部分ＡＤｅ，ＡＤｅには、吸収性本体１０は重ね合わせられていない。

[0047] また、同各部分ＡＤｅ，ＡＤｅには、それぞれ、弾性部材３５が、同部分ＡＤｅにおける横方向の一端部から他端部までの略全長に亘って連続して配置されながら、横方向に伸長下で固定されている。そして、これにより、当該各部分ＡＤｅ，ＡＤｅには横方向の略全長に亘って横方向の伸縮性が付与されている。

[0048] 他方、上記中央部ＡＤｃには、弾性部材３５が横方向に非連続に配置されている。詳しくは、この例では、上記中央部ＡＤｃのうちの横方向の両端部ＡＤｃｅ，ＡＤｃｅには、上記の弾性部材３５の端部が位置しているが、上記中央部ＡＤｃのうちの横方向の中央部分ＡＤｃｃには、弾性部材３５が存在しておらず、故に、上記中央部ＡＤｃでは、弾性部材３５が横方向に非連

続に配置されている。そして、このように中央部ＡＤｃの中央部分ＡＤｃｃに弾性部材３５が存在していない場合には、同中央部分ＡＤｃｃに伸縮性がほぼ付与されないことから、同中央部分ＡＤｃｃの横方向の収縮は抑制される。そして、これに伴い、吸収性コア１１の横方向の収縮も抑制されるため、当該吸収性コア１１の皺の発生も防止されて吸収性コア１１の肌側面は略平坦に維持される。そして、その結果、吸収性コア１１の吸液阻害を有効に防ぐことができて、また皺の発生に起因する排泄物の漏れも抑制することができる。

[0049] なお、本実施形態では、腹側帯部材３０ａの横方向の両端部ＡＤｃｅにおいて腹側帯弾性部材３５ａが配置されている部分の横方向長さＷａが、背側帯部材３０ｂの横方向の両端部ＡＤｃｅにおいて背側帯弾性部材３５ｂが配置されている部分の横方向長さＷｂよりも長い。言い換えると、腹側帯弾性部材３５ａのうち吸収性コア１１と重なる部分の横方向長さが、背側帯弾性部材３５ｂのうち吸収性コア１１と重なる部分の横方向長さよりも長くなるようにしている。このような配置の効果については、後述する図５において説明する。

[0050] また、図３に示すように、下部領域ＡＤの上記中央部ＡＤｃには、動物等の不図示のイラストが形成されたイラストシート４０が設けられているが、上記と同様の理由で、このイラストシート４０の皺の発生も抑制される。よって、イラストは見え易くなる。

[0051] また、図３に示すように、背側帯部材３０ｂの非肌側の表面には後処理テープ５０が設けられている。後処理テープ５０は粘着面を有する細長いテープ状の部材（テープ部材）であり、粘着面を内側にして折り畳んだ状態で背側帯部材３０ｂに固定されている。使用後のおむつ１を廃棄する際に、吸収性本体１０が内側になるようにしつつ縦方向に丸めたおむつ１に対して、折りたたまれている後処理テープ５０を伸ばして粘着面側を該おむつ１に巻き回すことにより、おむつ１を丸めた状態に保持することができる。これにより、おむつ１の内部（吸収性本体１０）に付着した排泄物等を外部に漏出さ

せることなくおむつ１を廃棄することができる。

[0052] ＜くびれ部１１ｃと帯部材側縁部との位置関係について＞

本実施形態のおむつ１では、吸収性本体１０（特に吸収性コア１１のくびれ部１１ｃ）に対する背側帯部材３０ｂの接合位置を調整することで、おむつ着用時において着用者の脚と吸収性本体１０（吸収性コア１１）との間に隙間が生じにくいようにしている。以下、比較例を用いて説明する。

[0053] 図５は、本実施形態における吸収性コア１１のくびれ部と背側帯部材３０ｂとの位置関係について説明する図である。図６は、比較例における吸収性コア１１のくびれ部と背側帯部材３０ｂとの位置関係について説明する図である。

[0054] 上述したように、おむつ１では腹側帯部材側縁部３０ａｅと背側帯部材側縁部３０ｂｅとが接合されることにより腹側帯部材３０ａと背側帯部材３０ｂとが環状に成形され、図１に示されるようなパンツ型のおむつとなる。その際、腹側帯部材３０ａに設けられた腹側帯弾性部材３５ａと、背側帯部材３０ｂに設けられた背側帯弾性部材３５ｂとが帯部材側縁部３０ａｅ，３０ｂｅの接合部を介して連結されたような状態となり、互いに伸縮力が作用し合うようになる。したがって、おむつ１の胴周り開口１ＨＢには、腹側帯弾性部材３５ａ及び背側帯弾性部材３５ｂによって横方向に沿った伸縮力が発生する。当該伸縮力が作用することによって開口１ＨＢが着用者の胴周りに密着し、着用時においておむつ１の位置がずれにくくなる。また、腹側帯弾性部材３５ａ及び背側帯弾性部材３５ｂが吸収性本体１０をそれぞれ横方向に引っ張るため、吸収性本体１０は横方向外側に拡幅され、着用者の股間部を広く覆うことができる。つまり、腹側帯部材側縁部３０ａｅと背側帯部材側縁部３０ｂｅとが接合されることによって、帯部材３０ａ，３０ｂの広い範囲において、腹側帯弾性部材３５ａ及び背側帯弾性部材３５ｂによる横方向の伸縮力が作用するようになる。

[0055] ところで、本実施形態の吸収性コア１１は、図５における縦方向の中間部（腹側端部１１ａと背側端部１１ｂとの間）にくびれ部を有することにより

、おむつ１の着用時において当該吸収性コア１１の両側部と着用者の脚とが干渉することを抑制し、着用者が脚を動かしやすいようにしている。その一方、吸収性コア１１はくびれ部において横方向の幅が腹側端部１１ａや背側端部１１ｂよりも狭くなっているため、当該幅が狭い領域で着用者の脚との間に隙間を生じやすいという問題がある。そして、着用者の脚と吸収性コア１１との間に隙間が生じると、吸収性コア１１内に排泄された排泄物が当該隙間から外部へ漏れ出るおそれがある。特に、寝姿勢におむつ１を着用することが多い乳幼児の場合、脚を動かす等の動作により臀部側に隙間が生じやすくなる。

[0056] これに対して、本実施形態のおむつ１では、図５に示されるように、背側帯弾性部材３５ｂが吸収性コア１１のくびれ部１１ｃと重複する領域を有することにより、この隙間を生じにくくしている。言い換えると、背側帯部材側縁部３０ｂｅの一部が、吸収性コア１１のくびれ部１１ｃと縦方向において位置が重複することにより、隙間を生じにくくしている。これは、吸収性コア１１のくびれ部１１ｃのうち、当該背側帯部材側縁部３０ｂｅと重複する領域に対して、上述したように腹側帯弾性部材３５ａ及び背側帯弾性部材３５ｂによる横方向の伸縮力が作用し、当該くびれ部１１ｃが横方向外側に引っ張られることで横方向に広がりやすくなるためである。そのため、着用者の脚と吸収性コア１１との間に隙間が生じるのが抑制される。

[0057] 一方、図６に示されるように、比較例のおむつ１では、背側帯部材３０ｂの背側帯部材側縁部３０ｂｅは、吸収性コア１１のくびれ部１１ｃと縦方向において位置が重複していない。この場合、吸収性コア１１のくびれ部１１ｃに対して腹側帯弾性部材３５ａや背側帯弾性部材３５ｂによる横方向の伸縮力は作用せず、当該くびれ部１１ｃが横方向外側に引っ張られることはない。したがって、着用者の脚と吸収性コア１１との間には依然として隙間が生じやすくなる。

[0058] このように、本実施形態では、背側帯部材側縁部３０ｂｅの少なくとも一部と、吸収性コア１１のくびれ部１１ｃとを縦方向において重複させるよう

にすることで、当該くびれ部１１ｃに対して腹側帯弾性部材３５ａ及び背側帯弾性部材３５ｂによる伸縮力を作用させ、吸収性コア１１のくびれ部を横方向に拡幅させることができる。これにより、着用者の脚と吸収性コア１１との間に隙間を生じにくくすることができる。

[0059] なお、腹側帯弾性部材３５ａ及び背側帯弾性部材３５ｂの伸縮力が作用する領域は、吸収性コア１１のくびれ部１１ｃのみには限られない。図５の場合、吸収性コア１１の背側端部１１ｂについても背側帯部材側縁部３０ｂｅの一部と縦方向において重複する領域を有する。したがって、当該背側端部１１ｂに対しても横方向外側に引っ張る力が働く。例えば、排便等によって吸収性コア１１の臀部側が重くなった場合でも、背側端部１１ｂが横方向外側（すなわち胴回り方向）に引っ張られることにより、吸収性コア１１の位置がずれにくくなる。本実施形態において、背側帯部材側縁部３０ｂｅと吸収性コア１１との縦方向における重複領域の長さは、少なくとも背側帯部材側縁部３０ｂｅの縦方向長さの半分（１／２）以上である（図５参照）。背側帯部材側縁部３０ｂｅのうちの半分以上の領域で吸収性コア１１と重複していることによって、吸収性コア１１の背側（臀部側）領域に腹側帯弾性部材３５ａ及び背側帯弾性部材３５ｂによる伸縮力が十分に作用しやすくなる。

[0060] ＜おむつ１に関するその他の効果について＞

おむつ１で、背側帯弾性部材３５ｂ（腹側帯弾性部材３５ａ）は、下部領域ＡＤのうち横方向の両側部に位置するＡＤｅ（図３参照）において、吸収性本体１０の横方向両端で縦方向に伸長された状態で設けられた脚周り弾性部材１７及び脚周り補助弾性部材１９の一部と交差するように配置されている。ここでは、腹側帯弾性部材３５ａと脚周り弾性部材１７及び脚周り補助弾性部材１９とが交差する領域の縦方向の長さをＬａとする。同様に、背側帯弾性部材３５ｂと脚周り弾性部材１７及び脚周り補助弾性部材１９とが交差する領域の縦方向の長さをＬｂとする。

[0061] このような交差領域では、おむつ１の着用時において脚周り弾性部材１７

及び脚周り補助弾性部材１９によって吸収性本体１０を縦方向に引っ張る力が働くと共に、背側帯弾性部材３５ｂ（腹側帯弾性部材３５ａ）によって吸収性本体１０を横方向に引っ張る力が働く。つまり、着用者の身体に対して吸収性本体１０（吸収性コア１１）を密着させるような力が働く。

[0062] なお、脚周り弾性部材１７及び脚周り補助弾性部材１９は、吸収性本体１０の縦方向の全領域にわたって伸長状態で配置されているわけではなく、縦方向の所定の領域において伸張状態で配置されている。該弾性部材が伸長状態で配置されている領域では吸収性本体１０に対して縦方向に収縮する力が働き、該弾性部材が伸長状態で配置されていない領域では吸収性本体１０に対して縦方向に収縮する力が働かない。本明細書中では、この縦方向に収縮する力が働く領域の縦方向長さを脚周り弾性部材１７及び脚周り補助弾性部材１９の「有効長」とも呼ぶ。図５及び図６において太破線で示される部分が脚周り弾性部材１７及び脚周り補助弾性部材１９の有効長に相当する。

[0063] 図６に示されるように、比較例では、腹側の交差領域であるＬａの長さと、背側の交差領域であるＬｂの長さとがほぼ等しい。具体的には、図６の領域Ｌａにおいて脚周り弾性部材１７の有効長部分と交差する腹側帯弾性部材３５ａは７本であり、図６の領域Ｌｂにおいて脚周り弾性部材１７の有効長部分と交差する背側帯弾性部材３５ｂは７本である。したがって、比較例では、背側帯弾性部材３５ｂによって脚周り弾性部材１７の有効長に作用する力（横方向外側に引っ張る力）がほぼ均等に作用する。

[0064] 比較例のような場合、おむつを着用する人間が足を動かすことにより、背側において吸収性本体１０（吸収性コア１１）のフィット性が悪くなるおそれがある。人間は主に前側（腹側）に足を動かすことが多いため、着用者が足を動かすたびに吸収性本体１０（吸収性コア１１）が前側（腹側）に引っ張られるのに対して、腹側帯弾性部材３５ａ（背側帯弾性部材３５ｂ）による収縮力は一定であるため、着用者の臀部において吸収性本体１０（吸収性コア１１）を横方向外側に引っ張る力よりも縦方向腹側に引っ張る力の方が支配的となり、吸収性本体１０（吸収性コア１１）の位置がずれやすくなる

。この場合、排便等によって背側が重くなった際に吸収性本体１０（吸収性コア１１）がずれた部分から排泄物が外部に漏出するおそれがある。特に、着用者が赤ん坊や幼児である場合は、寝姿勢でおむつが着用されることが多いため、背側（臀部側）の股間部に隙間が生じると、排泄物が漏出しやすくなる。また、吸収性本体１０（吸収性コア１１）の背側において横方向外側に引っ張る力が弱いと、着用者が足を動かすたびに吸収性本体１０の端部１０ｅｂが横方向の内側にずれやすくなるため、吸収性本体１０（吸収性コア１１）がめくれあがって臀部が露出しやすくなる。

[0065] これに対して、図５に示されるように、本実施形態では、腹側の交差領域であるＬａの長さよりも、背側の交差領域であるＬｂの長さが長い。言い換えると、脚周り弾性部材１７（脚周り補助弾性部材１９）のうち縦方向に伸長した状態にある部分（有効長）と背側帯弾性部材３５ｂとが交差する領域の方が、脚周り弾性部材１７（脚周り補助弾性部材１９）のうち縦方向に伸長した状態にある部分（有効長）と腹側帯弾性部材３５ａと交差する領域よりも大きい。具体的には、図５の領域Ｌａにおいて脚周り弾性部材１７の有効長部分と交差する腹側帯弾性部材３５ａは７本であるのに対して、図６の領域Ｌｂにおいて脚周り弾性部材１７の有効長部分と交差する背側帯弾性部材３５ｂは７本よりも多い１０本である。したがって、吸収性本体１０（吸収性コア１１）や脚周り弾性部材１７が背側帯弾性部材３５ｂによって横方向外側に引っ張られる力の方が、腹側帯弾性部材３５ａによって横方向外側に引っ張られる力よりも大きくなる。これにより、本実施形態のおむつ１では背側のフィット性を高くすることができる。

[0066] そして、本実施形態では、脚周り弾性部材１７（脚周り補助弾性部材１９）の背側における有効長が、少なくとも背側帯部材側縁部３０ｂｅの縦方向長さの１／２以上である。図５においても、脚周り弾性部材１７の背側における有効長Ｌｂは背側帯部材側縁部３０ｂｅの縦方向長さの半分以上となっている。背側帯部材側縁部３０ｂｅの領域では、腹側帯部材３０ａと背側帯部材３０ｂとを環状に成形したときに、腹側帯弾性部材３５ａ及び背側帯弾

性部材３５ｂによる横方向の引っ張り力が働くため、当該領域において脚周り弾性部材１７（脚周り補助弾性部材１９）と交差する範囲を大きくすることで、上述した効果によって、おむつ１のフィット性をより高くすることができる。

[0067] また、本実施形態のおむつ１では、腹側帯弾性部材３５ａのうち吸収性コア１１と重なる部分の横方向長さＷａを、背側帯弾性部材３５ｂのうち吸収性コア１１と重なる部分の横方向長さＷｂよりも長くすることにより（図５参照）、吸収性コア１１が横方向外側に引っ張られる力の強さを調整することができる。弾性部材が吸収性コア１１と重なる部分が長いほど、該弾性部材によって吸収性コア１１が横方向外側に強く引っ張られるため、本実施形態のように、背側帯弾性部材３５ｂと吸収性コア１１との重なり部分を短くすることで、背側において吸収性コア１１を直接横方向外側に引っ張る力が強くなりすぎないようにしている。これにより、臀部における吸収性本体１０のフィット感を維持しつつ、臀部と吸収性コア１１との間に若干のスペースが形成され、排泄された便を拡散させること無く当該スペースに保持することができる。一方、腹側において吸収性コア１１を直接横方向外側に引っ張る力を強くすることで、吸収性コア１１を身体に密着させ、排泄された尿が漏出することを抑制できる。

[0068] また、本実施形態のおむつ１では、脚周り弾性部材１７または脚周り補助弾性部材１９が縦方向に伸縮する際の伸縮力よりも、背側帯弾性部材３５ｂが横方向に伸縮する際の伸縮力の方が強くなるように、各弾性部材が設けられている。すなわち、脚周り弾性部材１７及び脚周り補助弾性部材１９を吸収性本体１０に張り合わせる際に脚周り弾性部材１７及び脚周り補助弾性部材１９を伸長させる割合よりも、背側帯弾性部材３５ｂを背側帯部材３０ｂに張り合わせる際に背側帯弾性部材３５ｂを伸長させる割合が大きくなるように、各弾性部材が配置されている。これにより、吸収性本体１０（吸収性コア１１）を横方向外側に広げる力がより強く働くため、着用者の臀部領域等で吸収性本体１０（吸収性コア１１）を横方向に拡幅し、排泄物が漏れる

ことを抑制しやすくしている。

[0069] また、本実施形態のおむつ１では、おむつ着用時において後処理テープ５０によって臀部側の肌触りに違和感を生じるのを抑制することができる。おむつ１では、背側帯弾性部材３５ｂと脚周り弾性部材１７とが交差する領域の縦方向長さＬｂが、腹側帯弾性部材３５ａと脚周り弾性部材１７とが交差する領域の縦方向長さＬａよりも長い。すなわち、背側帯部材３０ｂと吸収性本体１０との縦方向における重なり部が大きい。これにより、背側帯部材３０ｂの非肌側表面に固定されている後処理テープ５０の位置は、厚さ方向において吸収性コア１１の位置と重なりやすくなる（図３参照）。言い換えると、後処理テープ５０と吸収性コア１１とは、縦方向において少なくとも一部が重複する位置に配置されている。着用者がおむつ１を着用する際には、着用者の肌（臀部）と後処理テープ５０との間に厚さ方向に厚みを有する吸収性コア１１が存在するため、該吸収性コア１１がクッションとして機能することで、後処理テープ５０の感触を着用者の肌（臀部）に伝えにくく、違和感を生じるのが抑制される。

[0070] ＝＝＝その他の実施の形態＝＝＝

以上、本発明の実施形態について説明したが、上記の実施形態は、本発明の理解を容易にするためのものであり、本発明を限定して解釈するためのものではない。また、本発明は、その趣旨を逸脱することなく、変更や改良され得るとともに、本発明にはその等価物が含まれるのはいうまでもない。例えば、以下に示すような変形が可能である。

[0071] 上述の実施形態では、腹側帯部材３０ａ（背側帯部材３０ｂ）において、下部領域ＡＤの横方向の中央部ＡＤｃの伸縮性を低くする目的で、当該中央部ＡＤｃの弾性部材３５ａ（３５ｂ）を非連続としていた。つまり、吸収性コア１１のくびれ部１１ｃと縦方向において重複する位置に配置されている弾性部材は、帯部材の横方向中央部ＡＤｃにおいて非連続となるように配置されていた。そして、この非連続な弾性部材の一例として、図３に示すように、同中央部ＡＤｃのうちの横方向の両端部ＡＤｃｅ，ＡＤｃｅには、弾性

部材３５ａ（３５ｂ）が存在しているが、同中央部ＡＤｃのうちの横方向の中央部分ＡＤｃｃには、同弾性部材３５ａ（３５ｂ）が存在していない構成を例示したが、何等これに限らない。

[0072] すなわち、下部領域ＡＤの中央部ＡＤｃの伸縮性を下げるべく同中央部ＡＤｃに弾性部材３５ａ（３５ｂ）が非連続に配置されているのであれば、当該中央部ＡＤｃのうちの更に中央部分ＡＤｃｃに弾性部材３５ａ（３５ｂ）が存在していても良い。図７は、その一例の説明用の概略平面図である。なお、同図７では、腹側帯部材３０ａのうちの非肌側の不織布３１を取り除いて、弾性部材３５ａを外部露出した状態で示している。この図７の例では、中央部分ＡＤｃｃに位置する弾性部材３５ａは、細かく分断された状態となっている。そして、かかる細切れ状態になっていれば、弾性部材３５ａは、中央部分ＡＤｃｃに対して概ね伸縮性を付与しなくなる。よって、このように細切れ状態の弾性部材３５ａであれば、中央部分ＡＤｃｃに存在していても構わない。細切れ状態の弾性部材３５ａの長さは、例えば０ｍｍよりも大きく５ｍｍ以下の長さとされ、より望ましくは、０ｍｍよりも大きく３ｍｍ以下の長さとされる。但し、細切れされた弾性部材３５ａが存在していると、見栄えが悪くなるので、望ましくは、中央部分ＡＤｃｃには弾性部材３５Ｄが存在しない方が良い（図３）。

[0073] また、背側帯部材３０ｂについては、吸収性コア１１のくびれ部１１ｃと縦方向において重複する位置に配置されている背側帯弾性部材３５ｂが、横方向の一端部から他端部までに亘って連続して配置されているのであってもよい。横方向全域にわたって背側帯弾性部材３５ｂが連続的に配置されているのであってもよい（不図示）。これにより、中央部ＡＤｃに背側帯弾性部材３５ｂによる横方向の伸縮力が働くようになる。背側帯部材３０ｂの中央部ＡＤｃに伸縮力が作用することにより、当該部分において脚周り弾性部材１７（脚周り補助弾性部材１９）と背側帯部材３０ｂとが互いに引っ張り合い、背側帯部材３０ｂの全体を着用者の臀部に押し当てる。これによって、臀部側のフィット性を向上させることができる。なお、この場合でも腹側帯

部材３０ａに設けられる腹側帯弾性部材３５ａのうち、吸収性コア１１のくびれ部１１ｃと縦方向において重複する位置に配置されているものは中央部ＡＤｃにおいて非連続な部分を有する。吸収性コア１１の背側の領域に横方向の伸縮力を作用させないようにすることで当該領域において吸収性コア１１に皺を発生させず、乳幼児が寝姿勢でおむつ１を着用する際にも背中が痛くならないようにすることができる。

[0074] 上述の実施形態では、図３の下部領域ＡＤにおける横方向の中央部ＡＤｃに弾性部材３５を非連続で配置していたが、何等これに限らない。例えば、同中央部ＡＤｃに弾性部材３５を配置しなくても良い。すなわち、前述した図３の例では、中央部ＡＤｃには、横方向の各端部ＡＤｃｅ，ＡＤｃｅの位置に弾性部材３５の端部がかかっていたが、かかる弾性部材３５の端部が中央部ＡＤｃの端部ＡＤｃｅの位置にかかっていなくても良い。

[0075] 上述の実施形態では、外装シート１５ｂ及び帯部材３０ａ，３０ｂの素材をそれぞれ不織布としていたが、何等不織布に限らない。例えば、織布でも構わないし、織布以外のシート部材でも構わない。ちなみに、外装シート１５ｂについては省略しても良く、その場合には、防漏シート１５ａが吸収性本体１０の外装をなすことになる。

[0076] 上述の実施形態では、弾性部材３５として糸ゴムを例示したが、何等これに限らない。例えば、弾性部材３５として帯状のゴムを用いても良いし、伸縮性を有した帯状の不織布や、伸縮性を有した帯状の樹脂フィルムを用いても良い。

符号の説明

[0077] １　おむつ（吸収性物品）、１ＨＢ　胴回り開口、１ＨＬ　脚回り開口、
１０　吸収性本体、１０ｅａ　端部、１０ｅｂ　端部、
１０ｅｓ　端部、１０ｐ　部分、
１１　吸収性コア、
１１ａ　腹側端部、１１ｂ　背側端部、１１ｃ　くびれ部、
１３　表面シート部材、

１５　裏面シート部材、

１５ａ　防漏シート、１５ｂ　外装シート、

１５ｂｆ　はみ出した部分、１５ｂｇ　折り返された部分、

１７　脚周り弾性部材、１８　ＬＳＧ弾性部材、１９　脚周り補助弾性部材、

３０ａ　腹側帯部材、３０ａｃ　中央部、３０ａｃ２　部分、

３０ａｅ　腹側帯部材側縁部、３０ａｅ２　端部、

３０ｂ　背側帯部材、３０ｂｃ　中央部、３０ｂｃ２　部分、

３０ｂｅ　背側帯部材側縁部、３０ｂｅ２　端部、

３１　不織布、３２　不織布、

３５　弾性部材、

３５ａ　腹側帯弾性部材、３５ｂ　背側帯弾性部材、

４０　イラストシート、

５０　後処理テープ、

ＡＵ　上部領域、ＡＤ　下部領域、

ＡＤｃ　中央部、ＡＤｃｃ　中央部分、ＡＤｃｅ　端部、

ＡＤｅ　部分、

ＬＧ　脚回りギャザー、

ＬＳＧ　立体ギャザー（防漏壁部）、

ＬＳＧｂ　基端部、ＬＳＧｆ　自由端部分

請求の範囲

[請求項1] 縦方向と、前記縦方向と交差する横方向と、を有した吸収性物品であって、

前記縦方向に沿って設けられ、排泄物を吸収する吸収性本体と、

前記横方向に沿って設けられ、前記吸収性本体の前記縦方向の一端部を前記吸収性本体の非肌側から覆いながら前記一端部に前記横方向の中央部が固定された腹側帯部材と、

前記腹側帯部材とは別部材として前記横方向に沿って設けられ、前記吸収性本体の前記縦方向の他端部を前記吸収性本体の非肌側から覆いながら前記他端部に前記横方向の中央部が固定された背側帯部材と、を有し、

前記腹側帯部材及び前記背側帯部材には、前記横方向に沿って伸縮する弾性部材がそれぞれ配置され、

前記腹側帯部材は前記横方向両側縁に腹側帯部材側縁部を有し、前記背側帯部材は前記横方向両側縁に背側帯部材側縁部を有し、前記腹側帯部材側縁部及び前記背側帯部材側縁部が接合されることで前記吸収性物品が筒状に成形され、

前記吸収性本体は、液体吸収性素材を積層してなる吸収性コアと、前記吸収性コアを該吸収性コアの非肌側から覆う液不透過性の防漏シートを有し、

前記吸収性コアは、腹側端部と背側端部との間に、前記腹側端部及び前記背側端部よりも前記横方向の幅が狭いくびれ部を有し、

前記背側帯部材側縁部の少なくとも一部は、前記縦方向において前記くびれ部と位置が重複する、

ことを特徴とする吸収性物品。

[請求項2] 請求項１に記載の吸収性物品であって、

前記縦方向において前記くびれ部と重複する位置に配置されている前記弾性部材は、

前記腹側帯部材の前記横方向の一端部から他端部までの間、若しくは前記背側帯部材の前記横方向の一端部から他端部までの間、もしくはその両方、のいずれかに非連続となる部分を有する、ことを特徴とする吸収性物品。

[請求項3] 請求項２に記載の吸収性物品であって、

前記縦方向において前記くびれ部と重複する位置に配置されている前記弾性部材は、

少なくとも、前記腹側帯部材の前記横方向の一端部から他端部までの間に非連続となる部分を有する、ことを特徴とする吸収性物品。

[請求項4] 請求項１～３のいずれかに記載の吸収性物品であって、

前記背側帯部材側縁部は前記吸収性コアと前記縦方向において位置が重複する領域を有し、

前記重複する領域の前記縦方向の長さは、前記背側帯部材側縁部の前記縦方向の長さの半分以上である、ことを特徴とする吸収性物品。

[請求項5] 請求項１～４のいずれかに記載の吸収性物品であって、

前記吸収性コアより前記横方向外側に前記縦方向に沿って配置された脚周り弾性部材のうち伸長状態にある部分と、前記背側帯部材に配置された前記弾性部材とが交差する領域の前記縦方向の長さは、

前記背側帯部材側縁部の前記縦方向の長さの半分以上である、ことを特徴とする吸収性物品。

[請求項6] 請求項１～５のいずれかに記載の吸収性物品であって、

前記背側帯部材の非肌側表面には、前記吸収性物品を廃棄する際に前記吸収性物品を丸めた状態に保持するためのテープ部材が設けられ、

前記テープ部材と前記吸収性コアとは、前記縦方向において少なくとも一部が重複する位置に配置されている、ことを特徴とする吸収性物品。

[請求項7] 請求項１～６のいずれかに記載の吸収性物品であって、

前記背側帯部材の前記縦方向の長さは、前記腹側帯部材の前記縦方向の長さよりも長い、ことを特徴とする吸収性物品。

[請求項8] 請求項１～７のいずれかに記載の吸収性物品であって、

前記背側帯部材の前記縦方向の上側端部と、前記背側帯部材の前記縦方向の下側端部とが平行である、ことを特徴とする吸収性物品。

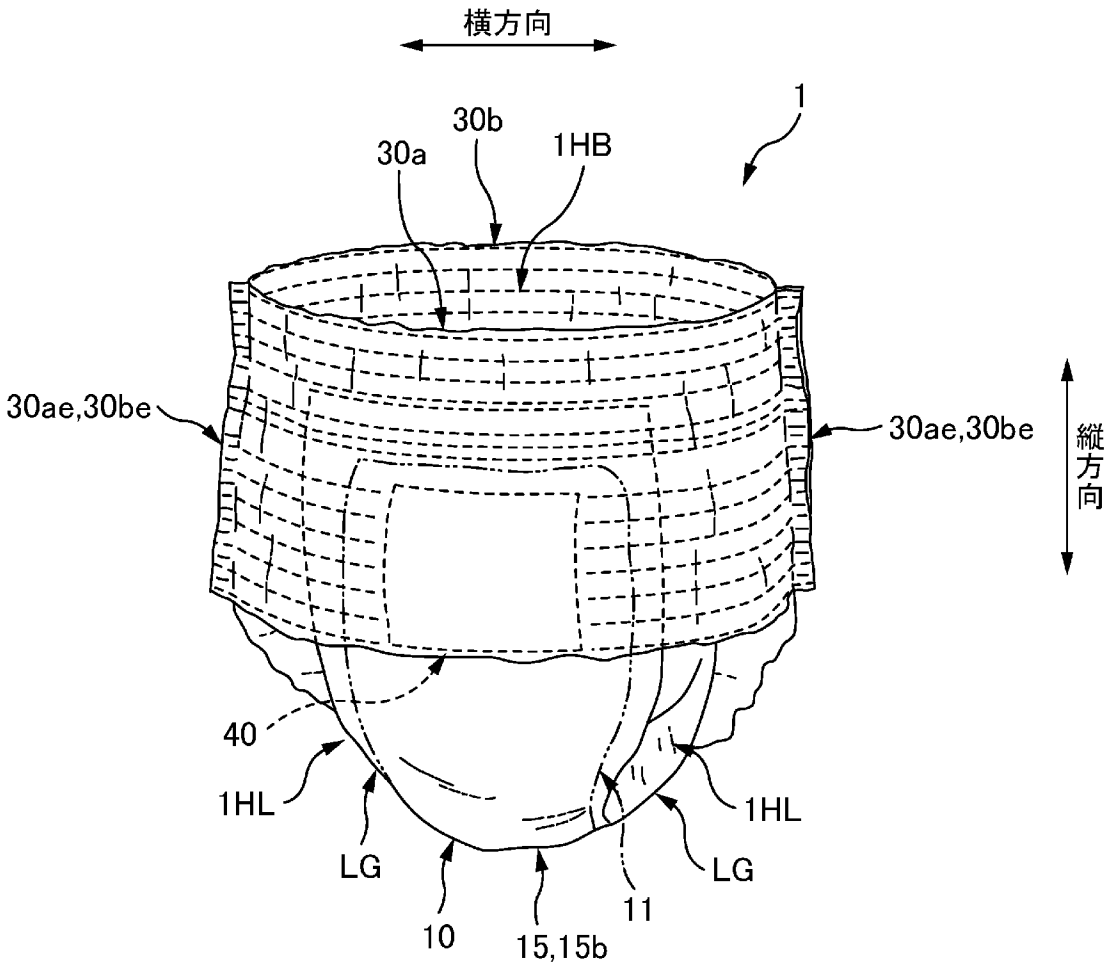
[請求項9] 請求項１～８のいずれかに記載の吸収性物品であって、

前記吸収性本体は、前記吸収性コアを肌側から覆うシート状の表面シート部材を有し、

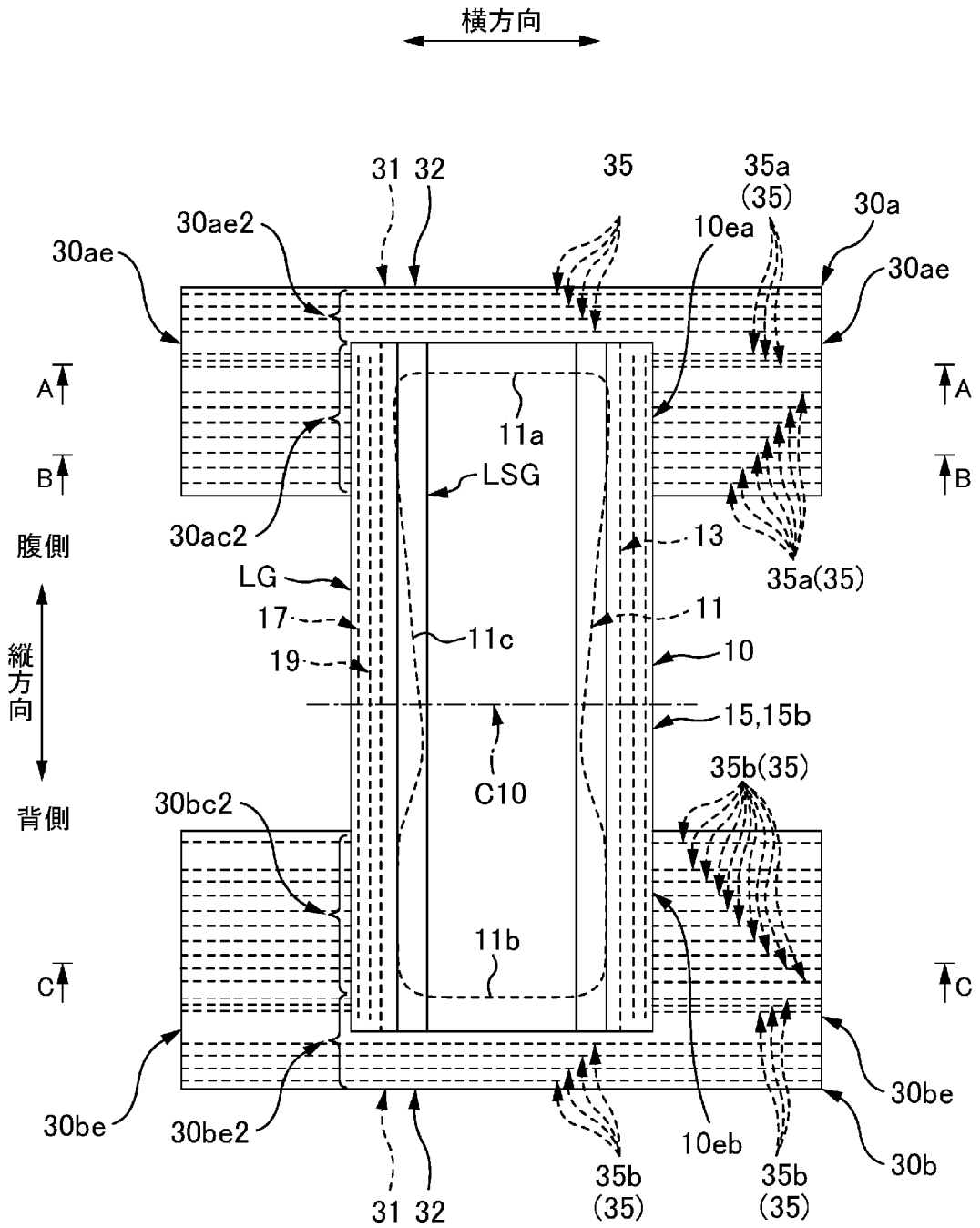
前記表面シート部材によって、該表面シート部材の横方向の各端部にそれぞれ起立する防漏壁部が成形され、

前記吸収性コアの前記腹側端部及び前記背側端部の位置において成形される前記防漏壁部の起立高さよりも、前記吸収性コアの前記くびれ部の位置において成形される前記防漏壁部の起立高さの方が高い、ことを特徴とする吸収性物品。

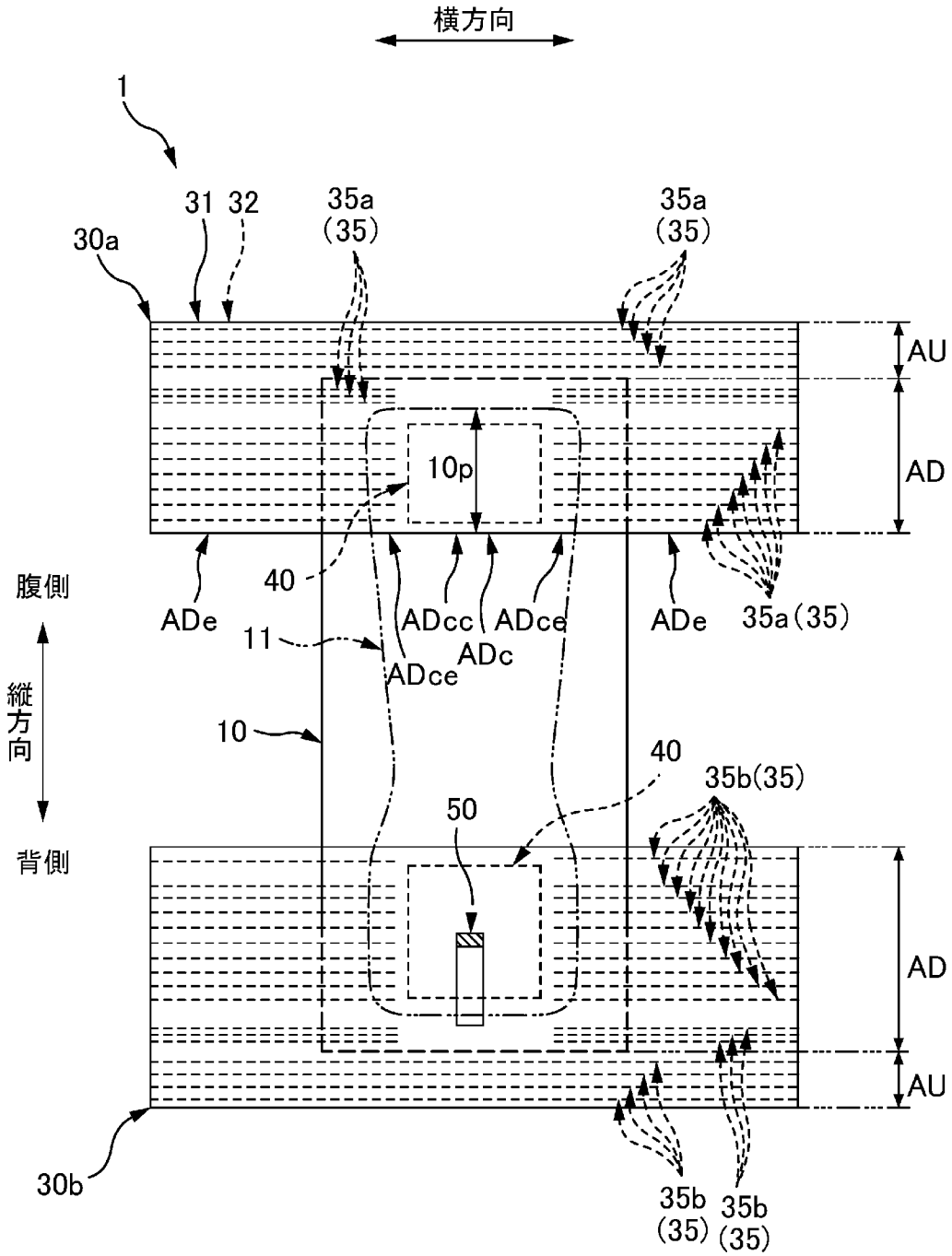
[図1]


横方向
1
30b
30a
1HB
30ae,30be
30ae,30be
縦方向
40
1HL
1HL
LG
LG
10
15,15b
11

[図2]


横方向
31 32
35
35a
(35)
30a
30ae2
30ae
10ea
30ae
A
B
腹側
縦方向
背側
C
11a
LSG
30ac2
13
35a(35)
LG
17
19
11c
11
10
15,15b
C10
35b(35)
30bc2
11b
30be
30be2
10eb
30b
35b
(35)
31 32

[図3]


横方向
1
31
32
35a
(35)
30a
35a
(35)
AU
AD
10p
40
腹側
ADe
11
ADcc
ADce
ADc
ADce
ADe
35a(35)
縦方向
10
40
35b(35)
50
背側
AD
AU
30b
35b
(35)
35b
(35)

[図4]

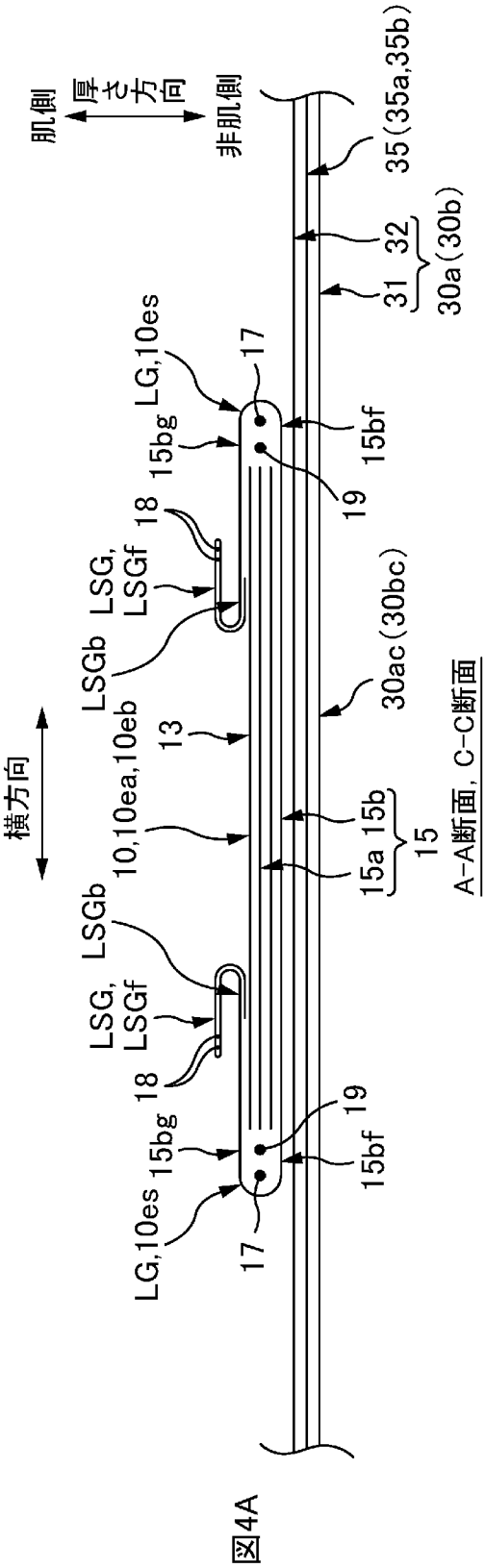

肌側
厚さ方向
非肌側
横方向
35(35a,35b)
32
31
30a(30b)
LG,10es
17
15bg
15bf
19
18
LSG,
LSGf
LSGb
10,10ea,10eb
13
30ac(30bc)
15a 15b
15
A-A断面, C-C断面

図4A

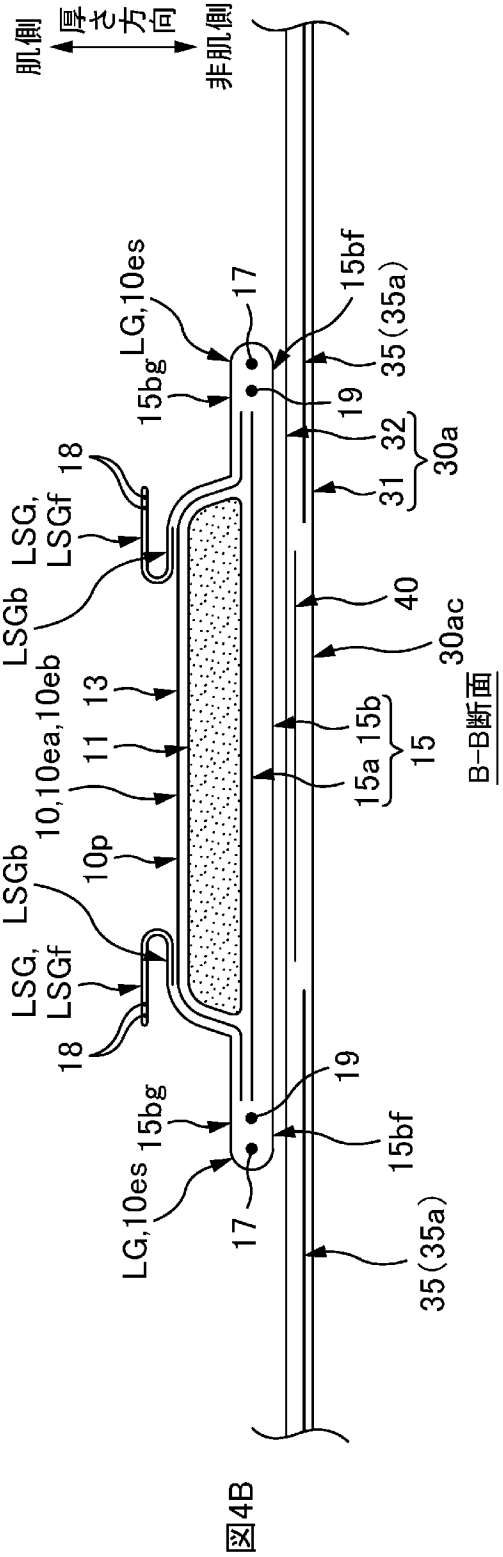
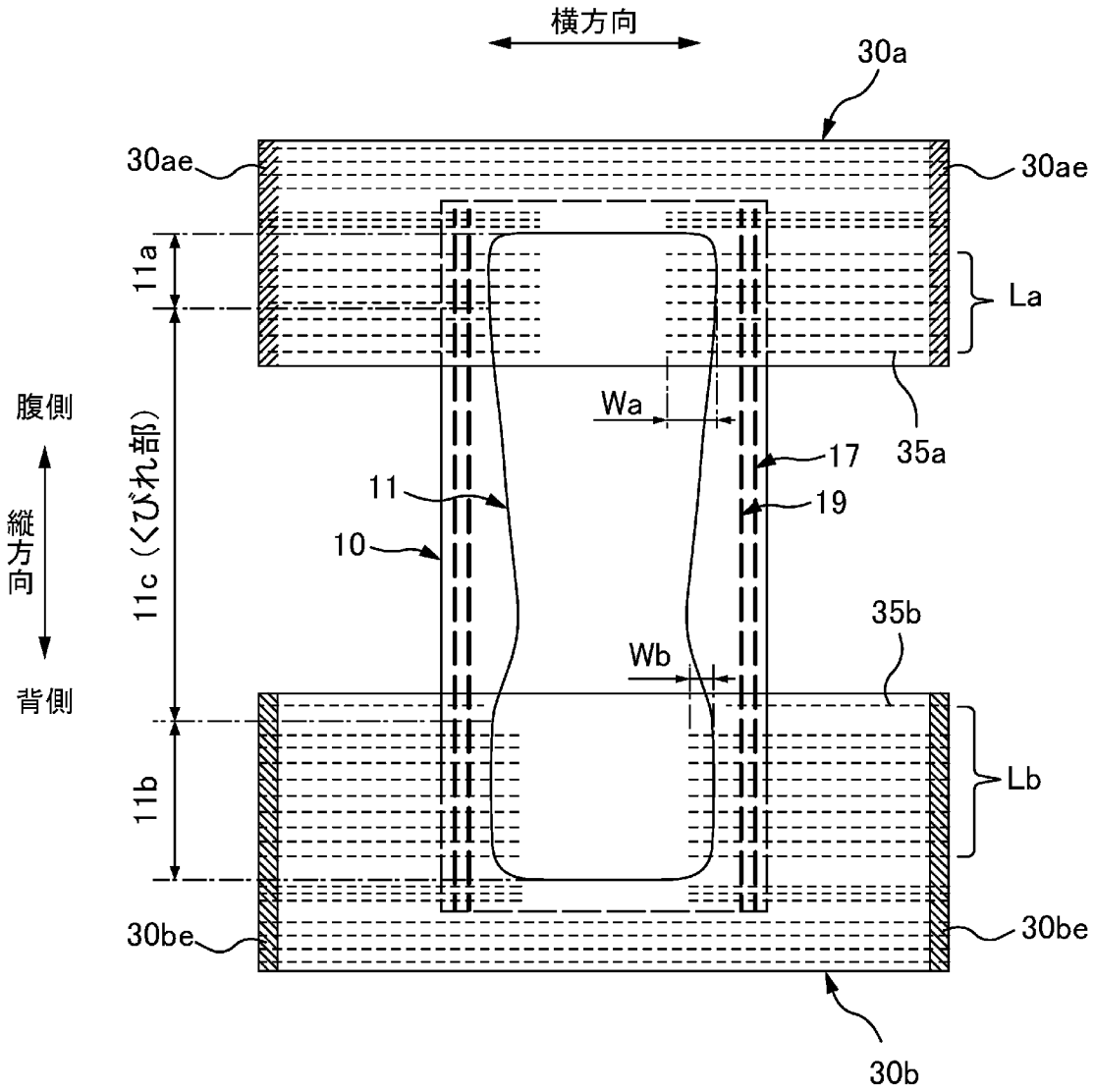
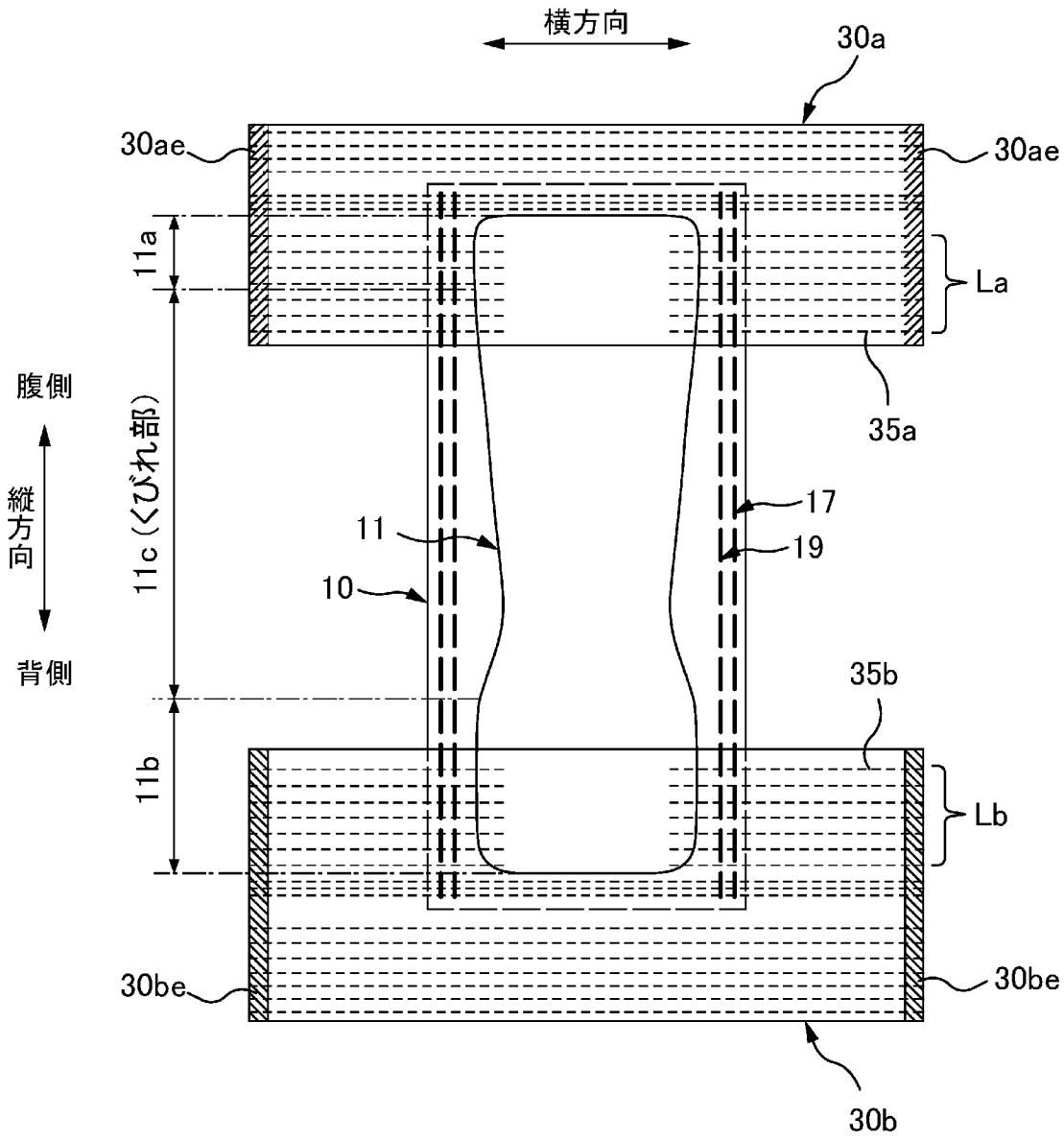

肌側
厚さ方向
非肌側
LG,10es
17
15bg
15bf
35(35a)
19
18
32
31
30a
LSG,
LSGf
LSGb
10,10ea,10eb
11
13
10p
40
30ac
15a 15b
15
B-B断面

図4B

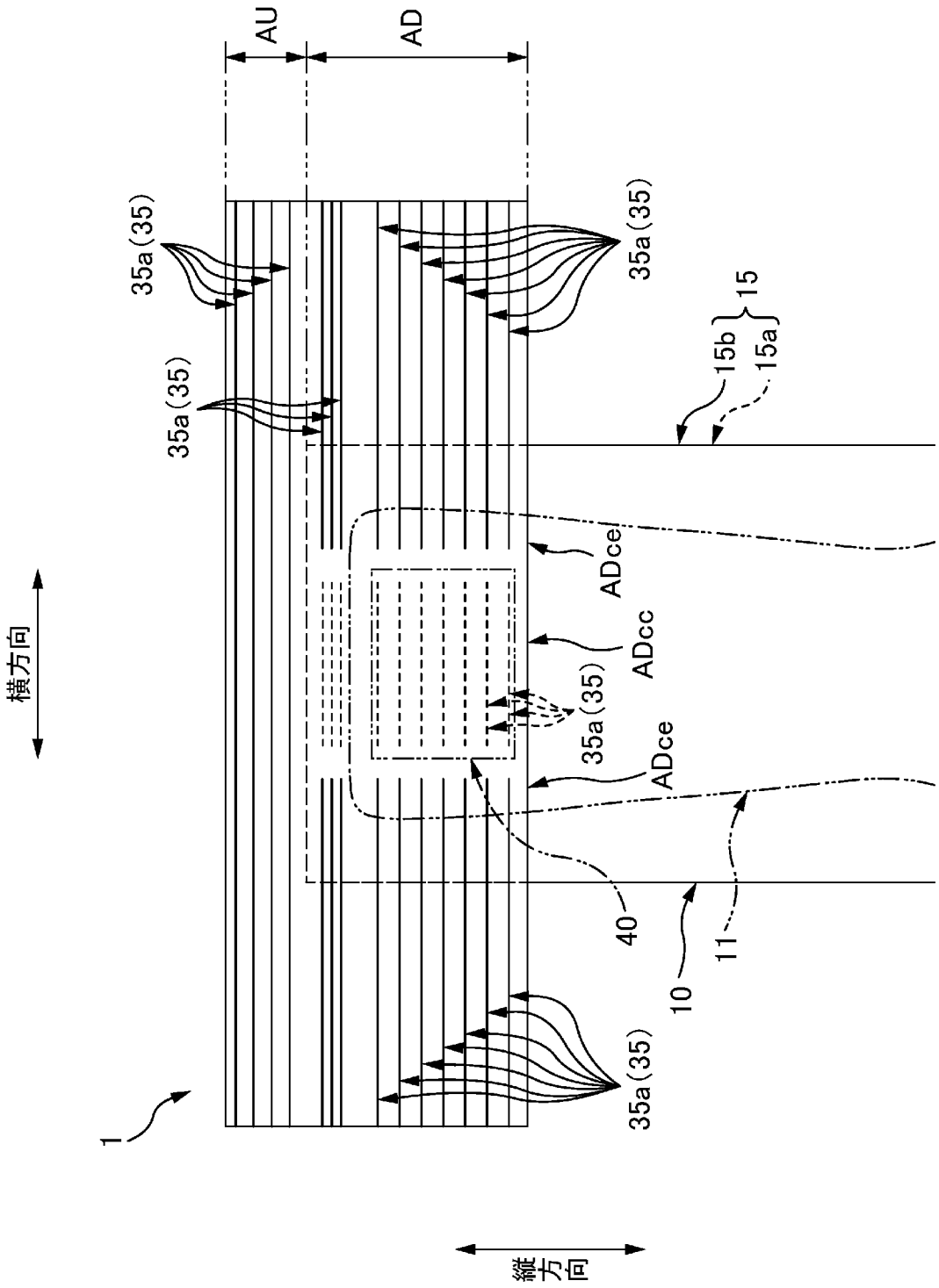
[図5]


横方向
30a
30ae
30ae
11a
La
腹側
縦方向
背側
11c（くびれ部）
Wa
17
35a
11
19
10
35b
Wb
11b
Lb
30be
30be
30b

[図6]


横方向
30a
30ae
30ae
11a
La
腹側
縦方向
11c（くびれ部）
35a
17
11
19
10
背側
35b
11b
Lb
30be
30be
30b

[図7]


AU
AD
35a(35)
35a(35)
35a(35)
35a(35)
35a(35)
15
15b
15a
ADce
ADcc
ADcc
ADce
40
11
10
1
横方向
縦方向